

昨年十一月、「伊佐沼農産物直売所」と共にオーブンした「伊佐沼庵」では、地元の小麦を粉にして作ったうどんを味わうことができます。

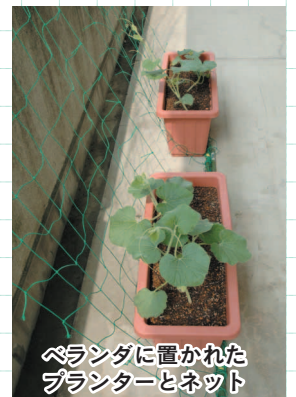
「伊佐沼庵」に使われている、かやぶき屋根の建物は、「旧戸田家住宅」といい、もともとは下松原にあった農家住宅を、平成五年に移築復元した物です。同住宅は江戸時代終



わりから明治時代の初めまでの間に建築されたと推定され、武蔵野台地における完成期のかやぶき農家住宅の典型とされています。建物の中に入ると、建築当初から百年以上も建物を支えてきた自然の曲がりを生かした太いはり組み合わさり、重厚な雰囲気を感じさせます。店内は、ほぼ満席。あちらこちらの席から、この建物が話題になっている様子。中には、店の方に質問している方の姿も……。「伊佐沼庵」に変わり、たくさん人が来るようになって、建物が生きてきました。「人に見られてこそアート」。そんな感じがします。



苗の根を大事にしなが
ら植え付けをする
川越小学校6年生の皆さん



ベランダに置かれた
プランターとネット

環境トピックス

壁面緑化で涼しく過ごす③

川越小学校の壁面緑化モデル事業が、いよいよスタート。

5月18日から26日にかけて、同小学校の3～6年生がアサガオ・ヒョウタン・ヘチマ・ゴーヤなどの苗を植え付けました。プランターに土を入れて肥料と混ぜるのも、児童が自分たちで行いました。6年生は、さすが最高学年。苗を植える際、根をほぐさないよう容器を取るのも手慣れた様子でした。植えたばかりの苗は、高さ10センチほど。まだ小さいものの、これから成長して夏には窓辺を覆うぐらいになり、教室の温度上昇を防ぐ効果が期待できます。

この壁面緑化に使っているのは、すべて一般に市販されている物です。市民の皆さんも、試しに始めてみてはいかがですか!?

問い合わせ…環境政策課みどりの係・TEL内線2615

どんぐり

編集後記

はっきりしない天気が続いています。建物など外での写真は、なるべく青空の下で撮りたいもの。空を見上げては、ため息の毎日です▶連休中、取材の合間を縫い、家族で横浜へ。山下公園から中華街での昼食後、元町を散策しました▶帰りに「川越と横浜、どっちがいい?」と子どもたちに尋ねると、すぐに「川越」という返事。理由は、「近いから」「菓子屋横丁があるから」。親としては、ちょっと複雑。でも、市の職員として、とてもうれしくなりました。



表紙の地図